

狀腺の發達は、二年たつてからでなければ活動の速度はおそいのであります。腦下垂體は四―五歳で最も強力なホルモンを出します。

即ち發育、内容の充實、力の量、内分泌腺などの點を考慮しても今までのべてきましたやうに三年がよいと思われま

す。結論として、集團的に保育さんが子供を扱うのは、三年以上がよくなるかと思われま

す。いろいろ御異論もあ

りのことと思ひますが、それは後程お叱りをうけることにいたしたく存じます。

司會者——先程シンポジウムは火花をちらして言い争うのがよいと言いましたが、これは下等ないゝ方でありました。(笑聲) 心理學、醫學と夫々科學的な立場からの研究は一致する筈であります。若しそうでなければ我々は體の幼稚園と心の幼稚園とを作らなければならぬということになります。一應落着きましたので安心致しました。それらをつくるために次に教育學的立場から城戸先生に御話をお願い致しまし

○教育的立場から

城戸幡太郎

城戸氏——教育學的立場から私の考えをお話してみましよう。齋藤先生が今話されましたやうに、教育年令とは一つの

計畫をもつて、即ち一つのカリキュラムを持つて教育を始め得る年令と考えます。

簡単に私の結論を申しますと、計畫的教育をするには目的と方法とはつきりさせなければならぬ。目的には二つあり、その一つは民主主義的教育、機會均等であり、もう一つは普通教育の義務化であります。この點よりみると、就学前の幼児については、今までの様に經濟的、社會的條件で差別するのはいけない。託兒所と幼稚園は一つにすべきであります。と言つてもいわゆる行政的一元化ではなく、三木さんと同じに、内容の充實と普及とを圖ればよいという意味であります。第二としての普通教育の義務化について考へますと、普通教育の意義、何時から始めるのが適當かなどということについてもいろいろ御意見がおりと思ひます。私は、普通教育というのは、近代社會人として、共通に持たなければならぬ國民の教養と考えます。そうすると、近代社會人の性格とはどういふ性格か、私は結局近世のデモクラシーの土臺の下に發達した生産主義と、それに伴つた個人主義に對して發達した社會主義の二つの性格であると思ふ。教育はこの近代社會に生活出來る人をつくらねばならない。近代的人間のこの性格を要約すれば、第一に、働く人間であります。ルネッサンス時代はホモサピエンス即ち考へる人間であつた。現在はホモバーレルであります。第二に、他人と協力して働く人間であります。生産の人間であります。第三に、人類の福祉を増進する爲に働く、文化的人間であります。近代人の特

性、任務は、生産的、社會的、文化的、といふことであります。そしてこの三目標を達成することが普通教育であります。これを達成する爲にどの年令から始めるのがよいかか問題となります。その三つの性格を持つ人間を育成するフアクターとして三つの教育が考えられます。

その一つは、職業的、技能的、すなわち物をつくり出す生産的人間を作る教育。二つめは、公民的人間、すなわち共同生活をいとなむ社會的責任を持ち得る人間を作る教育。もう一つは、一般の文化的教養を持つ人間を作る教育。この三つの教育が何時から始められるかということは、身心の發達の上に考えられなければならない。

山下先生、齋藤先生の御意見は科學的根據があるのですから、私も認めないわけには行きません。そうすると身體的發達が完成するのは三歳、その身體的基礎の上に心理的機能、殊に社會性が發達するのは四歳とみられます。

こゝにカリキュラムを作つてする教育と私が言うのは、つまり集團の場合を意味するのであります。家庭から學校教育へはいるとは、集團的に社會性に基いて教育をするということでありませぬ。教育の社會化といふところに、計畫的教育の本質があると考えられます。その教育の目的を達する方法は、集團的方法によらねばならず、これをなし得るのは三—四歳であります。従つて、教育を始めるのは三歳でもよいが、實際に出来るのは四歳からではないでしょうか。

現在の實際的教育制度からみると、小學校は六歳、幼稚園

は三歳となつています。そこで、幼稚園と小學校との連關をどうするかについて、いろいろ考え方があると思ひます。アメリカの最近の考え方は、身心の發達に基礎をおいて考えた時には、四歳から學校教育をすべきであると言つています。その結論として、小學校では四歳から十二歳まで、八年の初等教育が必要ということになります。しかしこれでは餘り長くなるので、前期四年、後期四年とにわけねばならないと思ひます。六三三制の三三が問題とされていませぬが、却つて我々は六の方を考えてみなければならぬと思ひます。つまり、これを八にして、四四とわけなければならぬと思ひます。アメリカでも新しい制度では、四四、四四四即ちファイヴフォーブランが合理的であるとされてきました。我々もこの始めの四四を研究しなければなりません。今までの小學校一、二年はむしろ幼稚園に結びつかなければなりません。つまり幼稚園二年と小學校二年が結びついた四年を計畫すべきであります。ファイヴフォーブランとは、最初の四はプライマリスクール、次がイミディエイトスクール、次がハイスクール、次の四年はカレッジ、最後の四年はユニヴァーシティ、といふ意味であります。私はこの四、四、四、四を合理的と考え、その最初、幼稚園と小學校との連絡を緊密にしたいと思ひます。

司會者——いろいろとお話を伺つてゐる間に時間がすぎ、閉會豫定迄にあつた僅か十分しかありません。この貴重な十

分開、貴重なる御質問、御意見をお出し下さい。

兒玉省氏——御話になりました諸先生方の御考えには、食い違ひがあるのではないでしょうか。吉見、三木兩先生は、就學前の集團的教育は何時からでも始めてよいと言つておられますし、齋藤先生、城戸先生あたりは、三歳とか四歳とか言つておられます。然し結局幼稚園なら三歳か四歳、ナーサリースクールならもつと早くてもいいのでしよう。幼稚園児としての條件と、きまつてのお話であるようでもあり、又はそれ以前の者でもいゝというようでもあり、その點先生方のお話が混同されているようであります。然しながら、要は、若し國家が幼稚園兒以下の子供の世話をしてやる必要があるである場合には、そのような子供たちを引受け得る態勢を整うべく努めてやるべきで、三歳にならなければ引受けられないなどという筈はないと思います。條件は、子供の年令如何によつて決定されるべきであります。教育もその年令によつて考慮決定されるべきであります。

次に伺いたいことは、カリキュラムによる計畫教育を以て、小學校教育の特色のように話されましたが、計畫教育はもつと早い時から始められていゝものであります。

次の世代に對する文化の遺産を興うるといふ意味での計畫教育でも、小學校以前の年令に於て始められてよいものであります。もう一つ、幼稚園教育の重大な目標の一つは兒童の社會化でありましよう。しかし、社會化といふことは、畢竟、或意味で平均化を意味します。就學前教育に於て期待す

ることは、個性の平均化を獲得した後、新しい個性の發達を求めめるものか、或は個性の平均化を冒しても、社會化の價値を重要視するものかであります。子供によつて、此等の教育の意義が違ふと思ひますが、これについて諸先生方の御意見を承わりたく思ひます。勿論私は、幼稚園の價値を重要視することに於ては、人後に落ちるものではありません。但し、子供により教育方法と意義とは違ふと思ひます。

司會者——こんがらかつてに對するお答えは。(笑聲)
城戸氏——少しもこんがらかつてはしません。(大笑)吉見

先生も幼兒教育を問題とされましたし、殊に齋藤先生は、はつきりと集團教育の時期の問題を目的として言われました。私は文化材の傳統などとは言わない。カリキュラムをつくるのは、文化材の傳統ではない。文化教育というのは、人類福祉を増加するためにする教育といふ意味で、傳統を無視するという意味ではないが、軽くみているのであります。

司會者——司會者の權威を以て、こゝでうち切らせていただきます。結論まで行かぬ所に、シンポジウムのいゝところがあゝと思ひます。(笑聲)

兒玉省氏——もう一言。たゞ一言。

司會者——御返事を要求なさいませんか。

兒玉氏——要求いたしません。たゞ一言。今日の議題は、「幼兒の教育年令の問題」というのであります。それは集團教育を問題となさつたかどうか。

城戸氏——集團教育が目的ではないが、(七一頁へつづく)

日本保育學會は、日本に於ける幼児教育の科學的發展の推進力たらんこととして設立されたものでありますが、まだ創設されたばかりでありますので、設立の目的を充分に果すことが出来る爲には、色々と御援助を頂かなければならないと存じます。そこで本會と致しましては、先ず貴會に色々と文通申上げることが御許し頂き、我々に有益な御助言を賜わり、日本の幼児教育進展の爲に御力添え下さるよう御願ひ致し度いと存じます。

我々は將來事情が許すならば、日本に於ける幼児教育者の爲にパンフレットやリーフレットの如きものを出版致し度いと計畫して居りますので、幼児教育に關し、貴協會から色々の資料を頂戴致す事が出来ましたら、誠に幸甚に存じます。現在日本には約二五〇〇の幼稚園と約二〇〇〇の保育所があります。この等々の保育施設は戦前に比べて非常に減少して居り、全國的に育えば該當年齡幼児の一〇％餘が幼児保育の恩恵に浴しているに過ぎない状態であります。日本の幼児保育に關しては、保育施設の普及、保育者の養成と再教育、新しい幼児教育の方法に關する研究等、残されている問題が澤山あります。

日本保育學會はあらゆる努力を拂つて、この國の幼児教育を科學的研究の基盤の上に打ち樹てようと力めて居ります。將來我々に對して御厚意ある御援助を賜わりますよう。全員一同を代表して私から御願ひ申上げる次第であります。

日本保育學會會長 倉橋惣三

(六四頁より) 計畫的に教育をしようとするには、自然に集團的となり、これを無視することは出来ません。

司會者——だん／＼司會者の權威がなくなりませんが、三木さんが、一言したいといわれますが、皆さんよろしいでしょうか。(拍手)

三木氏——現行幼稚園は、三歳からとなつていますが、それに何か根據があるかどうか、と山下さんが先程おつしやいましたので、それに對して一言申さなければなりません。これは昔の幼稚園令がそのまま残つていて、三歳からとなつていますが、これには、科學的根據はありません。農村とか、地方の人の場合は、幼稚園、保育所、兩方からやつていけばよいと思ひます。例をとれば、盲學校、聾學校の義務制について考えてみても、これらの子は、寄宿舎に入れねばならない爲に、金がかゝります。概して、これ等の人は貧困者が多いため、義務制としても、就學率は低いのです。そのため、生活を援けて上げねばなりません。そこで、寄宿舎を見直福祉施設にしてみたら、二枚看板でやるようにせねばなりません。幼児保育も、これと同じ意味で、現在の段階としては、普及につとめ、普及し易いようにすることが何より大切と思ひます。

司會者——では、これでシンポジウムを終わります。ありがとうございました。

(文責記者)